

2011 年度

事業計画書

公益財団法人 NHK交響楽団

1. 基本方針

2010 年度は、公演の柱である定期公演のチケット販売席数及び金額が、ともに 2009 年度を上回る見通しである。内訳を見ると、定期会員券のうちの年間会員券の販売収入はわずかに減ったものの、3 か月毎のシーズン会員券の販売収入と 1 回券の販売収入は増加しており、とりわけ 1 回券の販売収入の増加が顕著である。チケット販売のための様々な努力もさることながら、この間日本経済の回復が半ば足踏み状態にあったことを考慮に入れると、クラシックファンの経済的余裕が増したというよりは、定期公演の指揮者やプログラムが、聴きたいものだけを選択して聴くという青壮年層を中心とするクラシックファンの期待に応えるものであったことが大きな要因と思われる。2011 年度においても、緩やかに景気は回復するものの雇用や所得の大きな改善は期待できないとの観測が一般的であり、当団をめぐる経済的環境は依然として厳しいものと予想される。このため、優れた指揮者の起用や魅力のあるプログラムの編成が、当団の演奏力を向上させる上からだけでなく、厳しい選択眼を持つクラシックファンを引き付けるためにも一層重要となる。当団は、2010 年度に続いて演奏制作部の担当者をヨーロッパに派遣し、優れた指揮者の発掘や最新の音楽事情

の把握に努め、その成果をプログラムの編成に反映させる。また定期公演の魅力をクラシックファンに伝える広報の仕方にも、一段の工夫をこらすこととする。

当団を支援していただいている賛助会員の状況は、日本経済が本格的な回復軌道に乗らない中で、2010年度も経費節減を理由に退会する企業が多かったものの、結果としてはほぼ2009年度並みを維持することが出来る見通しである。首都圏以外の地方の優良企業を対象に賛助会員の開発に力を入れたことが一応の功を奏したと云える。2011年度は、こうした努力にさらに力を入れるとともに、これまでに賛助会員を退会した企業に対し改めて入会をお願いする活動を進める。

一方演奏面については、2010年度は首席常任指揮者のアンドレ・プレヴィンをはじめ優れた指揮者の起用と意欲的なプログラムを取り入れたことから、全体として高い評価を得ることが出来、観客の増加につながったことは、前述の通りである。2011年度についても、魅力のある指揮者の起用及びプログラムの編成に留意するとともに、A, B, C, 3つのプログラムの性格をより明確にし、幅広いクラシックファンの要望に応えられるように努める。中長期的な観点からは、

演奏力の更なる向上のために音楽監督或いは常任指揮者を置く必要があり、その人選を進めるとともに、将来有望な若手の人材の発掘に努める。

公益財団法人に相応しい財務基準の厳格化、透明性の確保、コンプライアンスの一層の強化に努める。

楽員が小中学校を訪れる「NHKこども音楽クラブ」と一部企業の支援を得て実施している「病院コンサート」は、内容に改善を加えながら継続する。

2. 事業計画

(1) 演奏のさらなる充実のために

当団は2011年で設立85周年を迎える。この間、当団は幾多の荒波を超えながら一貫して日本を代表するオーケストラであり続けた。国内の他のオーケストラがそれぞれ特徴を打ち出しながら演奏活動を展開し一定のファンを獲得している中で、当団が引き続きその地位を確保していくためには、これまでの伝統を大切にしながら、優れた指揮者のもとで演奏力をさらに充実させるとともに、クラシックファンから「さすがN響」と評価される意欲的なプログラムに挑戦していかねばならない。

○優れた指揮者の招聘

優れた指揮者はオーケストラの可能性を最大限に引き出し、オーケストラはその積み重ねによって演奏力を飛躍的に充実させることができる。2011年度は、名誉音楽監督シャルル・デュトワ、桂冠指揮者ウラディーミル・アシュケナージ、名誉指揮者ヘルベルト・ブロムシュテット、正指揮者尾高忠明、首席客演指揮者アンドレ・プレヴィンの当団指揮者陣の他、ロジャー・ノリントン、イルジー・コウト、レナード・スラットキン、スタニスラフ・スクロヴァチェフスキなど既に名声

を確立している指揮者、ジャンンドレア・ノセダ、ベルトラン・ド・ビリーなど、ヨーロッパで次代を担う精鋭の指揮者を招聘し、当団からそれぞれ様々な魅力を引き出してもらおう。

中長期的には、2007年9月から空席となっている音楽監督或いは常任指揮者を置き、その音楽性のもとで演奏力とプログラミングの充実を図ることが必要であり、その人選を進める。

○次期コンサートマスターの人選に向けた情報収集

指揮者の意図を的確に把握し、楽員をリードして演奏をまとめ上げていく優秀なコンサートマスターは、オーケストラの顔とも云える存在である。当団にとっては、次期コンサートマスターに如何に優秀な人材を獲得するかが喫緊の課題であり、国内外で活躍している日本人に幅広く目を向け、最適な人選をすべく情報収集を進める。

また、現在当団の第1ヴァイオリン担当のコンサートマスターは2人で、日本の他の有力なオーケストラに比べコンサートマスター1人当たりの負担が大きいことから、海外から短期間コンサートマスターを招聘する。

○演奏制作部職員の海外派遣

世界的指揮者、次世代を担う優れた若手指揮者の確保は、当団発展の生命線である。さらに、2007年9月から空席となっている音楽監督を再び置くことを目指している当団にとって、その候補者を選定するための情報収集は欠かせない。新たな優れた指揮者の発掘、招聘を図り、ヨーロッパの有力な音楽関係者との連携を強固にするため、演奏制作部の職員1名をヨーロッパに派遣する。

○定期公演のプログラムの特徴付け

定期公演 A、B、C のプログラムのうち、名曲を核に編成する A プログラムと、指揮者の得意な分野を生かし、近現代曲を含めて編成する B、C プログラムというプログラム毎の特徴付けに努め、幅広いクラシックファンの期待に応える。

また、ロジャー・ノリントン指揮による「ベートーヴェン・交響曲全曲シリーズ」を新たに開始する。長らくドイツ・オーストリー音楽の演奏を得意としてきた当団にとって同一指揮者のもとでベートーヴェンの交響曲を全曲演奏することは、その伝統を振り返ることであるが、作曲当時の演奏の仕方を重視するノリントンの指揮棒は、偉大な名曲から新たな魅力を引き出すことが期待される。更にシャルル・デ

ユトワによるマーラーの「交響曲第8番 千人の交響曲」や、アンドレ・プレヴィンによる20世紀音楽の頂点とも云われる「トゥーランガリラ」など意欲的なプログラムも予定している。特にオーケストラ、ソリスト、合唱団合せて多数の出演者を必要とする「千人の交響曲」を当団が演奏するのは、1992年以來19年ぶりである。

○この他の公演

「東京・春・音楽祭」と連携して昨年からはじめた、年に一作品ずつ演奏会形式で取り上げる「ワーグナー・楽劇シリーズ」では、ヨーロッパで急速に評価が高まっているアンドリス・ネルソンスの指揮で「ローエングリン」を演奏する。

○契約公演の開拓

2011年度の契約公演数は、3月1日現在36公演である。新たに鎌倉市(鎌倉芸術館)と、鳥取市(とりぎん文化会館)との契約が実現し、両市とも2011年度以降も継続の意向を伝えてきている。中でも、鳥取市は2010年度から当団の監修の協力のもとで「鳥取県クラシック・オーディション」を実施している。近年はこのように主催者から契約公演に関連して、多様な協力や要望が寄せられるケースが増えてきて

いる。こうした要望に応え、教育プログラムやアウトリーチ活動などにも積極的に協力し、新たな契約公演の獲得につなげていきたい。当団の財源の確保、ファンの拡大をはかるためにも、契約公演のさらなる開拓を目指す。

○ヨーロッパ公演の実施に向けて

当団は、2011年3月に北米公演を行うが、引き続いて、ヨーロッパの有力音楽マネジメント会社数社からヨーロッパ公演の誘いが来ている。クラシックの本場でのヨーロッパ公演は、当団の国際的評価の確立、世界への発信の観点からも重要であり、ぜひ近い年度での実現を目指したい。2011年度において、日程の確保、指揮者の選定、経費の目途など、計画案の作成に着手する。

(2) 特別支援・賛助会員の維持・開拓

2009年度の事業活動収入における特別支援と賛助会員からの支援金・賛助会費は約9%を占める。

特別支援は、現在11社である。一方賛助会員は、2008年度、2009年度と世界的な経済不況の影響を受け、減少を余儀なくされたものの、地方の有力企業に対する賛助会員開発策が効果を顕わし始め、2010

年度はようやく回復基調に戻せる見込みである。2011年度は、地方公演や契約公演で訪れた地域の優良企業に対する賛助会員開発に引き続き積極的に取り組むこととする。また、過去に退会を申し出た企業や団体に対し再入会をお願いするとともに、こうした活動を当団の職員の誰でもが容易かつ効率的に行えるよう、当団の歴史や財政状況、賛助会員制度等について分かりやすく相手先に説明できる周知印刷物（リーフレット等）の作成を検討する。

（3）定期公演収入の維持・拡大

2010年度の定期公演収入は、年間会員券販売収入が2009年度に比べて若干減少したものの、全体としては大幅な増収となる見込みである。主な要因は、年間会員券の減少に反比例して増加したシーズン会員券と、ここ数年増加傾向にある一回券の大幅な販売増による収入の増加である。

これは、指揮者や曲目を選んで当団の公演に足を運ぶクラシックファンを惹きつける内容を持ったプログラムが多かったことに加え、2008～2010年度中期計画において推進してきた、Aプログラム観客動員数の拡大に重点を置いた諸施策（プログラム内容の充実やチラシ配布・DM送付を中心としたチケット販売促進策など）が効果を表し

始めた結果と考えられる。従って販売面では、2011 年度も基本的には過去3年間推進してきたAプログラム動員拡大のための諸施策を継続するとともに、これらの施策をさらに強化することにより定期公演収入の維持・拡大を図る。

①定期会員券販売数の拡大

(概要)

定期会員券の販売収入は、シーズン会員券の販売数により期ごとの増減はあるものの、年度平均で見ると、ここ数年度は1公演月当たり、ほぼ1万枚前後の販売数を維持している。(2010年度の、いわゆる“定期会員数”は、年度平均で10,064人である。)

また、定期公演の販売収入は、そのうちの約80%が定期会員券販売収入(年間会員券70%、シーズン会員券10%)であり、残りの約20%が一回券販売収入となっている。

(継続会員の維持と新規会員開拓のための施策)

定期会員については、4月末から年間会員を継続するための手続きについての案内を送付し、続いて7月から8月末にかけて新規会員を募集することになっている。従って、まず4～6月にかけて、ブローシュアの送付や電話による案内など、より丁寧な既会員への

継続案内を行う。また、6～7月にかけては、新聞や折り込み広告、DM、各種会報などを活用して新規会員の募集とシーズン会員券の発売開始についての徹底した周知宣伝活動を展開することとしたい。

(オリジナル CD プレゼント)

シーズン会員や一回券の購入者が、年間会員になるきっかけとしての役割を果たしている「オリジナル CD プレゼント」は 2011 年度も継続することとし、CD の内容をさらに魅力のあるものにすることを検討する。

(N 響ガイドにおけるクレジット決済の導入の検討)

かねてから一部のお客様からは、定期会員券や一回券の料金をクレジットカードで決済できないのかと云うご指摘をいただいております。当団としても、お客様へのサービスの向上の観点から、導入の可能性について様々検討を続けてきた。その結果、導入の前提となる諸問題の解決に目途がついたことから、2011 年度中にクレジットカードによる決済を始めることとしたい。これによりお客様がインターネットで定期会員券や一回券を購入するシステムの構築も将来的に可能となり、定期会員券や一回券の販売の増加につながる

ことが期待される。

②一回券販売数拡大への取り組み

(概要)

2008～2010 年度中期計画において A プログラムの観客動員拡大に重点を置いた様々な対策を展開した結果、中期計画の最終年度に当たる 2010 年度の A の一回券の販売は、大幅に増加した。

(一回券販売数拡大のための諸施策)

2011 年度も引き続き A プログラムの一回券の販売数の拡大に重点を置いて次の施策を進める。

i) チラシ配布の強化

具体的には、過去 3 年間推進してきた都内コンサート会場におけるイメージチラシの配布をさらに強化するとともに、配布場所についても、東京駅周辺や新宿、池袋などのオフィス街においてもチラシを配布することが出来ないかを検討する。

ii) DM の活用と新たな媒体の開発

また N 響ガイドで定期会員券や一回券を購入したことのあるお客様に対する DM 送付をさらに拡大するほか、学校の同窓生・同期生など特定のグループを対象に発行されている機関誌・情報

誌等に当団の広告を掲載できないか検討する。

(4) インターネット・ホームページと携帯サイトの充実と活用

当団のインターネット・ホームページは、2007年度のリニューアル以降、アクセス数が急増した。その後も毎年、公演の見どころ聴きどころや出演者情報、チケット発売情報などの掲載ページを改善し内容を充実するにつれてアクセス数はさらに増加し、今や当団のホームページは、クラシックファンにとっては公演およびチケット発売に関する最新情報を入手するための最適な媒体であると同時に、当団にとってはチケット販売数拡大のための宣伝媒体として順調に機能し始めている。

2011年度はホームページの「メンバー紹介ページ」の改善や、機関誌「フィルハーモニー」において2010年9月から新たに掲載を開始した「今月のマエストロ」のホームページへの活用などを検討し、掲載内容のさらなる充実を図る。

また、2010年度から当団発行の全ての周知用の印刷物に二次元バーコードを掲載し、周知徹底を図ってきた携帯サイトのさらなる普及拡大を目指す。

さらには、長年の懸案である、定期公演や出演者インタビュー

等の動画配信の実現に向けて、ストリーミングの方法や放映するビデオの編集制作にかかわる人的・経費的な問題、権利処理の手続きや処理経費に関する問題などの検討と解決に取り組む。

(5) 機関誌「フィルハーモニー」の充実と見直し

機関誌「フィルハーモニー」は、当団と定期会員、支援者、クラシックファン等を結ぶパイプとして、定期公演に関する情報を中心に、その他の演奏活動や楽員の紹介、クラシック音楽や楽器に関するミニ知識、定期会員券や一回券の発売の情報等を読者に提供してきた。2010年度9月の新シーズンからは編集体制を一新するとともに、新たに指揮者インタビューや著名人による当団への応援メッセージ的なインタビューコーナーなどを新設した。2011年度は、基本的にはこうしたリニューアルに対する読者の反響を確かめながらさらなる内容の充実を図っていくとともに、インターネット・ホームページとの効果的、効率的な役割分担を探っていく。

(6) 適正で効率的な業務運営の推進

2010年度から公益財団法人として新たにスタートしたことを踏

まえ、業務の適法性・適正性をより一層意識した業務運営を進めていく。制度面では、規程や内規・要領等を見直し、必要な部分については追加・修正を行う。業務運営上の誤処理を未然に防ぐため、業務マニュアルの整備を進める。職員の意識面では、リスクマネジメント体制を確立し、不測の事態にも迅速・的確な対応がとれるようにするとともに、普段からリスクが発生し難い組織とするため、勉強会などによりコンプライアンス意識を徹底させていく。

また、的確に予算を管理し、経費節減を図っていくため、会計システムの全面見直しを進める。2011 年度中は、2012 年度夏を目途とするシステム移行に向け、業者選定やプログラム開発を行う。

(7) 事務局機能の充実

職員やスタッフを含め、30 名程度のコンパクトな事務局体制のもとで、公演プログラムの企画や定期会員・賛助会員の募集、楽員の管理などさまざまな財団業務を的確にすすめていくためには、事務局職員ひとり一人の能力を最大限に発揮できるよう能力開発や情報共有を図っていかなければならない。とりわけ、団の将来

を担う若手職員については、部外研修や勉強会などにより積極的に人材育成を行っていく。

【資料】演奏活動の詳細内容

2011年度、NHK交響楽団は以下の演奏活動を行い、お客さま、視聴者、リスナーの期待に応えることとしたい。

定期公演

当団の中心となる事業である定期公演は、周知のようにA・Cの2プログラムをNHKホール、Bプログラムをサントリーホール、3種のプログラムを9か月間2日ずつ、計54回行っている。

まず4月には、ロジャー・ノリントンのベートーヴェン・シリーズが始動する。シリーズの最初は、〈交響曲第1番〉。2006年の定期公演に初登場し、「ピュア・トーン」による演奏で大きな話題となったノリントンが、オーケストラにとって永遠のレパートリーであるベートーヴェンをN響とどう披露するのか楽しみである。また、マーラー没後100年を記念したマーラー・プログラムは、〈交響曲第1番〉に関係のある作品で構成された興味深いものとなっている。

▽	4月16日	4月17日	NHKホール	第1697回	定期公演	A プログラム
	指揮	ロジャー・ノリントン				
	曲目	ベートーヴェン：交響曲 第1番 ハ長調 作品21 エルガー：交響曲 第1番 変イ長調 作品55				
▽	4月22日	4月23日	NHKホール	第1698回	定期公演	C プログラム
	指揮	ロジャー・ノリントン				
	ソリスト	バリトン：ディートリヒ・ヘンシエル				
	曲目	マーラー：花の章 マーラー：さすらう若者の歌 マーラー：交響曲 第1番 ニ長調「巨人」				
▽	4月27日	4月28日	サントリーホール	第1699回	定期公演	B プログラム
	指揮	ロジャー・ノリントン				
	ソリスト	ピアノ：マルティン・ヘルムヒェン				
	曲目	ベートーヴェン：バレエ音楽「プロメテウスの創造物」序曲 ベートーヴェン：交響曲 第2番 ニ長調 作品36 ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」				

5月は、当団の正指揮者、尾高忠明と、若くしてボリショイ・オペラの音楽監督を務めたロシアの指揮者、ヴェデルニコフが登場する。尾高は、今年生誕100年を迎え、N響専任指揮者も務めた父・尚忠の〈交響曲第1番〉のほか、チェロの鬼才イッサーリスを迎えてのウォルトン〈チェロ協奏曲〉（N響初演）など、得意のイギリス音楽を指揮する。ヴェデルニコフは母国の作品でまとめたプログラムを披露。マケドニアの若手ピアニスト、トルプチェスキをソリストに迎え、演奏会で聴く機会が少ないチャイコフスキーの〈ピアノ協奏曲第2番〉を採り上げるのも興味深い。

▽	5月7日 指揮 曲目	5月8日 尾高忠明 尾高尚忠：交響曲 第1番 作品35 R. シュトラウス：交響詩「英雄の生涯」 作品40	NHKホール	第1700回	定期公演	A プログラム
▽	5月13日 指揮 ソリスト 曲目	5月14日 尾高忠明 チェロ：ステイーヴン・イッサーリス ウォルトン：チェロ協奏曲 エルガー：交響曲 第3番（ペイン補筆完成版）	NHKホール	第1701回	定期公演	C プログラム
▽	5月18日 指揮 ソリスト 曲目	5月19日 アレクサンドル・ヴェデルニコフ ピアノ：シモン・トルプチェスキ グリンカ：歌劇「ルスランとリュドミーラ」序曲 チャイコフスキー：ピアノ協奏曲 第2番ト長調 作品44 ラフマニノフ：交響的舞曲 作品45	サントリーホール	第1702回	定期公演	B プログラム

6月は、桂冠指揮者アシュケナージが登場。ドイツ、ロシア、そして北欧の音楽を採り上げ、三様のプログラムを披露する。アシュケナージが得意とするプロコフィエフやショスタコーヴィチの作品に加え、シベリウスの交響曲や、N響の弦楽合奏の響きを存分にお楽しみいただけるR. シュトラウス〈変容〉、そして、2007年のチャイコフスキー国際コンクールで優勝した神尾真由子のプロコフィエフ〈ヴァイオリン協奏曲第2番〉にも注目したい。

▽	5月28日 指揮	5月29日 ウラディーミル・アシュケナージ	NHKホール	第1703回	定期公演	A プログラム
---	-------------	--------------------------	--------	--------	------	---------

曲 目 R. シュトラウス：変容
 ブ람ムス：交響曲 第4番 ホ短調 作品98

▽ 6月3日 6月4日 NHKホール 第1704回 定期公演 C プログラム
 指揮 ウラディーミル・アシュケナージ
 ソリスト ピアノ:アレクサンダー・ガヴリリュク
 曲 目 プロコフィエフ：組曲「3つのオレンジへの恋」作品33a
 プロコフィエフ：ピアノ協奏曲 第2番 ト短調 作品16
 シベリウス：交響詩「大洋の女神」作品73
 シベリウス：交響曲 第7番 ハ長調 作品105

▽ 6月8日 6月9日 サントリーホール 第1705回 定期公演 B プログラム
 指揮 ウラディーミル・アシュケナージ
 ソリスト ヴァイオリン:神尾 真由子
 曲 目 ショスタコーヴィチ:弦楽八重奏のための2つの小品 作品11 (弦楽合奏版)
 プロコフィエフ:ヴァイオリン協奏曲 第2番 ト短調 作品63
 ショスタコーヴィチ:交響曲 第5番 ニ短調 作品47

新シーズンが始まる9月から12月までは、N響創立85周年を記念したプログラムをお送りする。

まず9月には、名誉指揮者ブロムシュテットが登場。十八番のブルックナー<交響曲第7番>や、名手カヴァコスとのシベリウス<ヴァイオリン協奏曲>、実力派アンスネスとのラフマニノフ<ピアノ協奏曲第3番>など、魅力的なプログラムが並ぶ。中でも、意外なことに今回がN響との初演奏となるドヴォルザーク<交響曲第9番「新世界から」>には、大いに期待が高まる。

▽ 9月10日 9月11日 NHKホール 第1706回 定期公演 A プログラム
 指揮 ヘルベルト・ブロムシュテット
 ソリスト ヴァイオリン:レオニダス・カヴァコス
 曲 目 シベリウス：ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47
 ドヴォルザーク：交響曲 第9番 ホ短調 作品95「新世界から」

▽ 9月16日 9月17日 NHKホール 第1707回 定期公演 C プログラム
 指揮 ヘルベルト・ブロムシュテット
 ソリスト ピアノ:レイフ・オヴェ・アンスネス
 曲 目 ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第3番 ニ短調 作品30
 チャイコフスキー:交響曲 第5番 ホ短調 作品64

▽ 9月21日 9月22日 サントリーホール 第1708回 定期公演 B プログラム
 指揮 ヘルベルト・ブロムシュテット

曲 目 シューベルト：交響曲 第7番 ロ短調 D.759「未完成」
ブルックナー：交響曲 第7番 ホ長調（ノヴァーク版）

10月は、首席客演指揮者のプレヴィンが登場。得意とするモーツァルト＜交響曲第36番「リンツ」＞、R. シュトラウス＜歌劇「ばらの騎士」組曲＞では、プレヴィンならではのオーケストラ・サウンドを堪能していただけることだろう。また、ブラームス＜ドイツ・レクイエム＞や、メシアン＜トゥランガリラ交響曲＞といった大曲をプレヴィンがどう指揮するかにも、大いに注目が集まる。

▽	10月15日	10月16日	NHKホール	第1709回	定期公演	A	プログラム
	指揮	アンドレ・プレヴィン					
	ソリスト	ソプラノ:中嶋 彰子 バリトン:デーヴィッド・ウィルソン・ジョンソン 合唱:二期会合唱団					
	曲 目	ブラームス:ドイツ・レクイエム 作品45					
▽	10月21日	10月22日	NHKホール	第1710回	定期公演	C	プログラム
	指揮	アンドレ・プレヴィン					
	ソリスト	ピアノ:児玉 桃 オンド・マルトノ:原田 節					
	曲 目	メシアン:トゥランガリラ交響曲					
▽	10月26日	10月27日	サントリーホール	第1711回	定期公演	B	プログラム
	指揮	アンドレ・プレヴィン					
	ソリスト	ヴァイオリン:イエウン・チェ					
	曲 目	モーツァルト:交響曲 第36番 ホ長調 K.425「リンツ」 ショスタコーヴィチ:ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 作品77 R. シュトラウス:歌劇「ばらの騎士」組曲					

11月は、チェコの巨匠コウトが登場する。マーラー没後100年を記念した2つのプログラムでは、＜第4番＞と、マーラー最後の2つの交響曲＜大地の歌＞、＜第10番＞から「アダージョ」を指揮。いずれも、ドイツの歌劇場を中心に活躍中の歌手をソリストに迎える。また、母国の作曲家ドヴォルザーク＜交響曲第7番＞も聞き逃さない。ベートーヴェン＜ヴァイオリン協奏曲＞のソリスト、セルゲ・ツィンマーマンは、ドイツの名ヴァイオリン奏者フランク・ペーター・ツィンマーマンの息子。20歳の若さで既にヨーロッパで活躍中のセルゲの演奏にも注目したい。

▽	11月11日	11月12日	NHKホール	第1712回	定期公演	C	プログラム
	指揮	イルジー・コウト					

ソリスト アルト:クラウディア・マーンケ
 テノール:ジョン・トレレーベン
 曲 目 マーラー:交響曲 第10番 から「アダージョ」
 マーラー:交響曲「大地の歌」

▽ 11月16日 11月17日 サントリーホール 第1713回 定期公演 B プログラム
 指揮 イルジー・コウト
 ソリスト ヴァイオリン:セルゲ・ツインマーマン
 曲 目 ベートーヴェン:ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品61
 ドヴォルザーク:交響曲 第7番 ニ短調 作品70 ほか

▽ 11月26日 11月27日 NHKホール 第1714回 定期公演 A プログラム
 指揮 イルジー・コウト
 ソリスト ソプラノ:ダニエレ・ハルプヴァクス
 曲 目 マーラー:リュッケルトによる5つの歌
 マーラー:交響曲 第4番 ト長調

12月には名誉音楽監督シャルル・デュトワが登場。交響曲としては最大規模で、N響としては19年ぶりの演奏となる〈交響曲第8番「一千人の交響曲」〉を指揮し、マーラー没後100年の棹尾を飾る。ソリストには、ソプラノのブリューワー、テノールのグローヴズ、バスのレマルをはじめとする世界一流の歌手が顔を揃え、名演が期待される。ほかにも、バルトーク唯一のオペラ〈青ひげ公の城〉など、幅広いレパートリーを持つデュトワならではの多彩なプログラムが並び、N響創立85周年の年を締めくくる。

▽ 12月3日 12月4日 NHKホール 第1715回 定期公演 A プログラム
 指揮 シャルル・デュトワ
 ソリスト ソプラノ:クリスティーネ・ブリューワー、メラニー・ディーナー、天羽 明恵
 アルト:イヴォンヌ・ナエフ ほか
 テノール:ポール・グローヴズ
 バリトン:未定
 バス:ジョナサン・レマル
 合唱:東京混声合唱団
 児童合唱:NHK東京児童合唱団
 曲 目 マーラー:交響曲 第8番 変ホ長調「一千人の交響曲」

▽ 12月9日 12月10日 NHKホール 第1716回 定期公演 C プログラム
 指揮 シャルル・デュトワ
 ソリスト ヴァイオリン:リサ・バティアシュヴィリ
 青ひげ:未定
 ユーディット:タチャーナ・パヴロフスカヤ
 曲 目 ブラームス:ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品77
 バルトーク:歌劇「青ひげ公の城」作品11 (演奏会形式)

▽	12月14日	12月15日	サントリーホール	第1717回	定期公演	B プログラム
	指揮	シャルル・デュトワ				
	ソリスト	ピアノ：ニコライ・ルガンスキー				
	曲目	ヒンデミット：ウェーバーの主題による交響的変容 プロコフィエフ：ピアノ協奏曲 第3番 ハ長調 作品26 バルトーク：オーケストラのための協奏曲				

1月は、アメリカの指揮者スラットキンと、チェコの指揮者エリシュカを迎える。スラットキンは、バーバー〈ヴァイオリン協奏曲〉や、ルトスワフスキ〈チェロ協奏曲〉など、聴く機会の少ない作品を指揮。それぞれのソリストを務めるナージャ・サレルノ・ソネンバーグとジャン・ギアン・ケラスの演奏にも注目したい。エリシュカは、母国の3人の作曲家の作品を採り上げる。村上春樹の小説『1Q84』で話題となったヤナーチェクの〈シンフォニエッタ〉も演奏される。2009年にN響初登場でスメタナの〈交響詩「わが祖国」〉を指揮し、高い評価を得たエリシュカ。今回も母国愛にあふれた名演が期待される。

▽	1月13日	1月14日	NHKホール	第1718回	定期公演	C プログラム
	指揮	ラドミル・エリシュカ				
	曲目	スメタナ：交響詩「ワレンシュタインの陣営」 ヤナーチェク：シンフォニエッタ ドヴォルザーク：交響曲 第6番 ニ長調 作品60				
▽	1月18日	1月19日	サントリーホール	第1719回	定期公演	B プログラム
	指揮	レナード・スラットキン				
	ソリスト	チェロ：ジャン・ギアン・ケラス				
	曲目	ロッシーニ：歌劇「どろぼうかきさぎ」序曲 ルトスワフスキ：チェロ協奏曲 (1970) ショスタコーヴィチ：交響曲 第10番 ホ短調 作品93				
▽	1月28日	1月29日	NHKホール	第1720回	定期公演	A プログラム
	指揮	レナード・スラットキン				
	ソリスト	ヴァイオリン：ナージャ・サレルノ・ソネンバーグ				
	曲目	ペルト：フラトレス(1977 / 1991改訂) バーバー：ヴァイオリン協奏曲 作品14 チャイコフスキー：交響曲 第6番 ロ短調 作品74「悲愴」				

2月は、フランスの指揮者ド・ビリーと、イタリアのノセダという、世界が注目する2人の指揮者が登場する。2002年から2010年までウィーン放送交響楽団首席指揮者として高い評価を得たド・ビリーは、N響初登場。得意とするシューベルト〈交響曲第8番「ザ・グレート」〉を中心としたプログラムを披露する。一方、

ノセダはロシアとイタリアの作曲家の作品を採り上げる。中でも、イタリアの作曲家カセルラの〈交響曲第2番〉は、演奏会ではなかなか聴くことのできない大曲。母国の作曲家の知らされる音楽を積極的に採り上げているノセダの指揮に期待が高まる。

▽ 2月11日	2月12日	NHKホール	第1721回	定期公演	A プログラム
指揮	ベルトラン・ド・ビリー				
ソリスト	イザベル・ファウスト				
曲目	ドビュッシー:牧神の午後への前奏曲 プロコフィエフ:ヴァイオリン協奏曲 第1番 ニ長調 作品19 シューベルト:交響曲 第8番 ハ長調 D.944 「ザ・グレート」				
▽ 2月17日	2月18日	NHKホール	第1722回	定期公演	C プログラム
指揮	ジャンアンドレア・ノセダ				
ソリスト	ピアノ:デニス・マツォーフ				
曲目	チャイコフスキー:ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 作品23 カセルラ:交響曲 第2番 ハ短調 作品12				
▽ 2月22日	2月23日	サントリーホール	第1723回	定期公演	B プログラム
指揮	ジャンアンドレア・ノセダ				
ソリスト	チェロ:エンリコ・ディンド				
曲目	ショスタコーヴィチ:チェロ協奏曲 第2番 ㄋ短調 作品126 ラフマニノフ:交響曲 第3番 イ短調 作品44				